

幸常関 議会報告

第13号
2009.1
発行責任者
南魚沼市議会議員 関 常幸
南魚沼市浦佐2015番地
TEL025-777-2245



「義と愛」元年を迎えて

寒中お見舞い申し上げます。

百年に一度の大不況と言われる中新しい年を迎えました。

今こそ「義と愛」の精神でこの難局を乗り切りましょう。

今年もご指導のほどよろしくお願いいたします。

昨年は地球温暖化と世界的気象災害の発生、ファンドマネー(投資家)に踊された「原油高と穀物高騰」、中国製冷凍ギョーザ中毒事件にはじまり汚染輸入米の不正流通で終った「食の安全問題」、マネーゲームが崩壊した「金融危機と恐慌の到来」。そして総理大臣が2回替わる大政局と大変な年でした。この地球で起きる事件がそのまま私たちの暮らしに直撃しているにもかかわらず、行政・議会として適切な対応が出来ないことに歯がゆさを感じた。

そして、財政ワースト1の当市の財政健全化と地域の活性化「毘沙門様千年のまちづくり」とめいいうって活動した。また、農業・特に魚沼コシヒカリの危機(食味で)と畜産の振興、教育環境の充実と学力の向上、基幹病院の早期開院・やまと病院と六日町病院の今後、働く場の確保・企業誘致を重点に市長や執行部に迫ったが、納得いかない部分もおおくあった。

新年を迎え1月4日ドキドキしながら20時を迎えた。NHK大河ドラマ「天地人」がスタートした。いきなり豊臣秀吉と兼続公の対峙。与六と喜平次の初対面が取っ組み合い。謙信公が単身坂戸城に乗り込み弓矢飛び交う中、与六と眼光の出会い。そして雲洞庵での謙信公・喜平次との対面。とくに、家族愛と母親の強さ。そして母との別れのシーンは涙した...

一年間「直江兼続公」生誕の地として放映される南魚沼市。明るい話題としてとらえるだけでなく、62,000人市民一人一人が外に向かってそれぞれ発信する。そこから新しい産業が創造されたり、新しい人・物が入ってくることになる。この千載一遇のチャンスを、兼続公の「義と愛」そしてもてなしのこころで地域を活性化させましょう。



毘沙門堂山門

12月議会(9日~19日)

市長選挙後初の議会は、いろいろの場面で激論が戦わされた。一般質問には23人が登壇し市長の2期目4年間の市政について考えを問うた。

★議会初日の人事案件(新副市長・小原元久氏、教育委員・遠山正雄氏再任・木村かずみ氏再任、監査委員・廣井正一氏再任)は可決するが、教育委員の選任に端を発し、本定例議会中に総務文教委員会が懇談会も含め6回も開催されるという事態になる。改めて常任委員長の言動は一般議員より重くその責任は重いものだと感じる。副市長については、12/15井口章一郎氏が退任し、翌16日小原氏が就任した。

★議会最終日に雇用悪化に伴い「緊急経済対策」(信用保証料補給制度)を発動。

・中小事業者の資金繰りを支援するため上限は1千万円、市税の滞納等の要件があるので商工観光課に問い合わせして下さい。

・高卒で内定取り消し者に、一定期間市の臨時職員としての採用を検討している。
・解雇等による失業者に市の臨時職員として雇用(申込み終了)や市営住宅の提供。

★今秋市議選から議員定数「30人」から「26人」に!

3月議会に「議員定数調査特別委員会」が設置され、これまで6回の委員会を開催し、議員定数削減が本定例議会に提出される。私はより専門化し少数の議員でも、民意は反映できるという事と、80%以上の市で法定定数を減員しているという現状から議員定数削減に賛成した。

● 一 般 質 問 ●

おはようございます。傍聴者の皆様師走のお忙しい中議会にお出でいただき感謝申し上げます。

今日で退任される井口副市長さん、長い間本当にご苦労様でした。大和町時代の助役から11年、合併、財政健全・財政再建のために中心となり奮闘して下さいました。そして、常に首長の懐刀・右腕として活躍されておりました。明日からその席に姿が見えないと言うことは、寂しい思いがいたします。

井口副市長さんが、おじいちゃんとして腕に抱くお孫さんの姿が目に見えます。そのお孫さんが「住みたくなる町」にする事をお約束いたします。本当にありがとうございました。

さて、先に通告いたしました2点について質問いたします。

外国人児童に対する教育支援について

現在南魚沼市には47カ国・710名の外国人の方が住んでおられる。そのうち国際大学に関係している方は、留学生が288名、家族滞在者が52名、そして短期滞在や教授等の関係者を入れるとおよそ5割の350人くらいと推定。永住、定住している方は165人、その他に研修や特定活動で来られている方が75人いる。

そして、南魚沼市に外国からお嫁さんとして嫁いで来られた方が76名。私の地域にも中国から来たお嫁さんがおり、お子さんが授かり、もう地域の一員にとけ込み、お子さんを中心に明るい家庭になっている。



小学校授業

この家庭のように日本に嫁ぎ、日本で生まれた子供さんは、日本語に対する言葉の心配はいらない。

私の町内にボランティアで日本語を教えている方がおられ、その方から外国人児童に対する教育の実態を聞かされた時、あ然とすると同時に言葉を失った。

日本に嫁さんに来られた中には再婚の方も多くおり、結婚するときに子どもさんを連れてくる方と、結婚して2～3年たってから子どもさんと呼ぶ場合とがある。良い伴侶に巡り会わなかった二人は、結婚して幸せになり、そして、家族も喜んだ。しかし、一緒に連れてきた来た子どもさんは、どうでしょうか…。

日本という初めての国に期待と不安の中で、当市にきた。小学生の子は小学校に、中学生は中学校に転入し通う。その子は当然日本語は分からない。通っている学校にも中国語やフィリピン語を話せる先生はいないし、専門で担当する先生もいない。

現在は3小学校に4人、3中学校3人、計7名おり、その6学校、7名の児童に一人の先生（臨時の方）があたっている。その先生の6月の訪問予定を見ると、月は午前中五十沢中学、午後から塩沢中学。火曜日は大巻小、六日町中、塩沢中と2時間づつ。水曜日は午前大巻小、午後は六日町中。木曜日は午前塩沢中、午後大巻小。金曜日は大巻小となっている。

大崎小学校にいた4年生は4月から不要と言うことであったが、情緒不安定になり又指導に行きだしたので、今の時間割は変更になっているが、どの児童も週のうち1日か2日くらいしか日本語を教えてもらえない。後の時間は教室で何をしているのでしょうか。

それでは大変だと言うことで、ある中学では先生がたが予定を組んで担当を決めたが、忙しく手が回らなくなり、最近は全くやっていないという。

私たちの子ども達と同じように、教育を公平に受ける権利があるはずだ。子ども達の将来のために、そして外国から南魚沼市に嫁いで来てくれたお母さんが安心するためにも、市長はこの現状をどのように考えているのか。

私はこの事は不平等であり許されるものではない。市長の見解を伺う。

市長・教育長答弁

おっしゃるとおりです。

10月1日 遠藤実先生作曲市歌発表

トピックス



10月2～4日 北海道米視察ホクレンにて

10月19日 県知事選挙



10月31日～11月10日 浦佐菊まつり

15年度から中国の児童に支援体制をとったのがスタートです。現状では日本語で支援できる人が限定され一人のかたに多くの負担となっており、予算措置も含め体制を充実させたい。

魚沼市との連携について

安全安心の町づくりを進める上で、魚沼市との連携協調なくしては進まない事業がたくさんある。現に大和地区のゴミ処理は魚沼市の施設を利用している。

魚沼基幹病院、広域観光・尾瀬の玄関口としての浦佐駅、浦佐駅に只見線の発着をという構想。当市に隣接する水の郷工業団地、国道17号浦佐バイパスの促進。広域消防と生活に密着した課題が多くあり、それらは常に連携をとりながら推進してきた。

そういう中で、先の魚沼市長選挙が開催され、現職の市長がやぶれ、スタンスが微妙に違う大平市長が誕生した。特に懸案である魚沼基幹病院問題と水の郷工業団地について伺う。

魚沼市では小出県立病院の取扱いを巡りようやく方向性が見え、両市で歩調が合い県も地元で合意ができたとして、平成27年夏に開院というスケジュールを発表し、診療科や病床数等の姿が見え、開院に向けてようやく一歩すすむところまで来た。ここに来て、南魚沼市と魚沼市が足並みが揃わないことになると、足踏み状態どころか魚沼基幹病院問題はストップしかねないと危惧している。そういうことは心配なのか…。そして、今三条・燕を中心に県央地域の基幹病院問題がクローズアップしてきており、これ幸いに、魚沼基幹病院問題が県央地域に移行する事態になるかも知れない。

この事についてまず市長の考えを伺う。

魚沼地域は広大な面積、県土の約20%を有し、人口は23万人と県の約10%。魚沼地域の医療課題として、救命救急・高度医療を担う病院が不足し、三次救急は長岡に頼る状況で、なお搬送まで1時間以上かかり、助かる命も助からないこともある。また、癌とか心筋梗塞等の患者も約半数は長岡市内に行っている。



魚沼市役所小出庁舎

まさに基幹病院の建設は、魚沼23万人の安全安心のためにも一日でも早い開院が望まれる。早まっても後退はゆるされない。

魚沼市の大平市長と、このことについて一日でも早く協議し、予定通り進むことが重要と思うが市長の考えを伺う。

もう一点、魚沼市が進めている水の郷工業団地は、30%の計画のうち1期工事15%の用地買収も終わり、来年は造成工事が始まるばかりとなっている。

企業誘致に向けて企業立地推進課がせっちされ7人の職員体制で誘致活動が行なわれている。工業団地の立地場所や地権者に大和地区の市民もいることから当市にも大きな恩恵があることは間違いない。

そのことから、南魚沼市でも情報を共有し、連携して企業誘致する事が最優先課題と思うが市長の考えを伺う。

市長答弁

基幹病院問題と地域医療の役割については、19年度に魚沼市と一致を見ており、23万人魚沼地域全体の問題でありますので、開院が早まっても遅れることの無いように強力に進めてゆく。大平新市長とは19日に会うことになっており、具体的にどのような考えなのかは解りませんが、報道で知るかぎり心配はしていない。

来春の6月には造成工事が終ると聞いており、企業誘致がなれば立地場所から行っても、私たち大勢の市民の働く場所にもなるわけですので、魚沼市さんとは最大限の協力体制を築きながらすすめてゆきたい。

11月16日 市長選挙



11月22日 婦人会主催「環境講演会」

12月17日 まちづくりワークショップ



12月20日 アメリカ農業研修帰国報告会

小・中学校区の再編について

12月4日の懇談会(総務文教委員会と教育委員会)で、「学区再編」についての説明を受ける。児童の減少が進む中で、教育委員会より諮問を受けて学区再編検討委員会が設置され2年間11回にわたる審議を経て、平成20年11月20日最終答申がされた。

現状の小学校の児童数は昭和60年の5,918人をピークに、中学校は平成5年の2,950人をピークに減少傾向が続いている。今年度5月現在で小学校は3,655人、中学校は2,046人とピーク時の小学62%、中学69%となっている。小学校においては多くの学校で1学年1学級は維持しているものの、1学級あたりの人数は激減している。また中学校においてはいくつかの学校で生徒数が少ないために部活動等が十分できない等の問題がでてきている。さらに平成26年度には小学3,102人、中学1,738人と減少傾向は今後も続く。

答申書は19頁からなり具体的な学校名を上げている。これからこの答申をもとに教育委員会では、平成21年度から検討していく。学校統合は地域の皆さんとの話し合い合意が基本であるが、主役は児童・生徒。子ども達の将来のためにしっかりとした十分な議論が必要だ。

12/24基幹病院の姿が見えてきた!!

主な機能：救命救急センター、がん診療連携拠点病院、周産期母子医療センター、外傷センター、地域医療センター、地域医療支援病院、地域内電子カルテネットワーク、災害医療センター、精神科医療

病床数：454(一般病床400、精神病床50、感染症病床4)

診療科：22~24科(内科、外科、産婦人科、小児科など)

大和病院の病床数や外来・診療科の内容は、基幹病院との役割分担の中で今後検討する事になっており、大和病院は基幹病院に吸収合併されてしまうのではと不安を感じている人が多くおります。どのような体制になるかは、基幹病院が開院するまでの今後6年間の大和病院の診療活動にかかっていると宮永院長先生は話しており、市民病院(六日町も含め)として300床以上は必要と考えており、そのために医師・看護師を増員すると話しております。

市民のみなさん基幹病院の開院で、今より診療内容やサービスが落ちることはありません。今必要なのは宮永院長先生を信頼し大和病院を応援することです。



後山小学校

後援会長*新年のご挨拶



後援会長
北村 洋成

牛の歩みも千里です!

新年明けましておめでとございませす!

日頃より関常幸市議会議員に御支援又後援会活動にご協力、ご参加いただき本当にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年度はチェンジ(変化)チェンジ(変化)という言葉が流行りました。政治の世界、経済の世界、いい意味で変わっていただけるといいんですが、年明けからもあまり良い話題、ニュースが飛び込んできません。

変わったと言え、関常幸さんが市議になられてからのこの地域、毘沙門様を核にした活動が非常に活発になり、いろいろな会を立ち上げ、大勢の人たちに声を掛け一緒に活動しようと、そ

して一緒に汗をかこうと呼びかけ、ご参加いただいています。これは非常に今までにないいいチェンジ(変化)だと思います。

私もPTA活動の一環で街頭でスクールガードをやらせていただいています。最初恥ずかしそうにめんどくさそうに朝の挨拶ができなかつた子ども達(自分も含め)も、次第に慣れきちんと挨拶ができるようになり、元氣よく登校しています。これもチェンジかな?

関議員は4年目を迎えました。議員活動の総仕上げの年です。今まで以上に市民の為に、地域の為に汗をかいていただき、いい刺激アイデア提案、チェンジ(変化)を期待します。

天地人の影響で本当にこの土地を訪れる方が増えました。来た人達に「住んでいる人達が輝いている!生き生きしてるな!是非又訪れたい!」と思われするような地域づくりを、関議員を中心として皆さんとともに取り組んでいきたいらと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

編集後記

FMゆきくに午後4時の時報に注目ください!毘沙門堂普光寺の「梵鐘」です。ラジオ聞いた人から、心が洗われる言い音ですなとうれしい声が届きました。

1月も半ばを過ぎると浦佐の男緒は、裸押し合の大祭モードになり、2月浦佐の町は大祭一色になり3月3日を迎える。あの時代・幼少の与六(兼統公)喜平次(景勝公)も毘沙門様を参拝し、裸押し合いに参加したと地元では盛り上がりつつある……。

孫の翔乃介6ヶ月になりました。泣き出したときなどに「サンヨー・サンヨー」とあやすどっかい目を開けてニコニコ笑います!!元氣のじいちゃん(84歳)がいますので、なんと呼ばせようか悩んでいます。